

# 幼児の保護者向けプログラムの開発

幼児期は交通安全の基本を吸収する大切な時期です。しかし、最も身近にいる保護者の安全意識が低ければ、教育の効果も薄れてしまいます。保護者の意識を高めたいという声は地域の交通安全指導者からもあり、今年は幼児の保護者を対象としたプログラムを開発しました。

## 保護者が自分の行動を振り返り 何をすべきかに気づいていただく

地域の交通安全指導者から聞かれるのは「一般的に交通安全教育は幼児期から始まるが、幼児に守るべき交通ルールを教えるも、その後の保護者の言動によって台無しになってしまうことがある。したがって、保護者にも交通安全の重要性を再認識してもらうためのプログラムがほしい」という声でした。こうした現場のニーズに応えるため、新プログラム「わが子の命を守るために」を開発。今年8月に完成したこのプログラムは、小学校入学前の幼児の保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、わが子の命を守るために何をすべきかに気づいていただくことを目的としています。

5つのテーマからなる本編映像(①歩き方、②自転車 保護者、③自転車 こども、④自動車、⑤ルール、マナー)および資料集で構成され、それらを交通安全指導者が幼稚園・保育園などの要望や実施時間に応じて選択し、組み合わせをアレンジして、安全教室を開催できるようになっています。

本編映像は2人の保護者(お母さん)の交通安全に対する意識



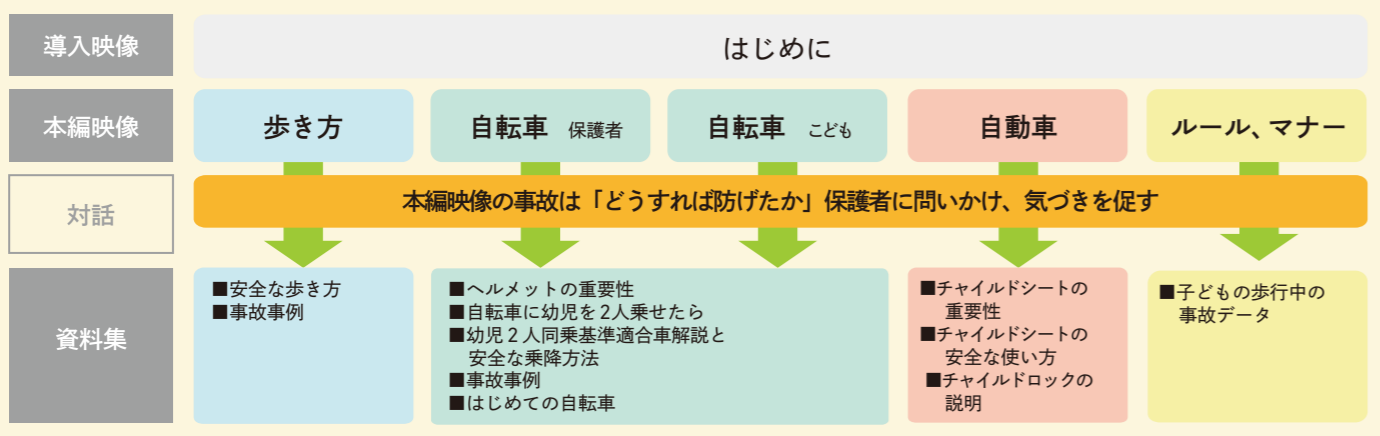
本編映像では、子どもへの交通安全教育に熱心なお母さん(左)と、安全意識が低いお母さん(右)の行動を対比することで、保護者に思い当たる部分がないか振り返ってもらいます(本編映像「歩き方」より)

や行動を比較することで、子どもを事故から守るためにはどのように行動すべきかを考えていただく内容となっています。例えば、「歩き方」では、お母さんが子どもと常に手をつなぎ、信号が青でも曲がってくるクルマがあるので渡る前に右、左、右をみることを教えます。しかし、もう一方のお母さんは信号が青点滅になった時、一人で先に渡ってしまい、横断をやめようとする子どもを「早く行くよ」と呼びつけてしまうのです。そして、お母さんに向かって走る子どもが右折してきたクルマと接触してしまうところで映像は終わります。

その後、このようなケースで事故を防ぐためにはどうしたらいいか、交通安全指導者が保護者に問いかけ、考えてもらいます。このように、映像を見せるだけでなく、保護者との対話型構成になっている点もプログラムの特徴です。最後に、資料集を使って事故を起こさないようにするためのポイントを解説します。



### プログラム概要



## 保護者が参加する交通安全教室での活用が進む

今年8月より、幼児の保護者向けプログラムは全国各地の交通安全指導者に活用されています。長野県松本市の交通安全指導員は、松本光明幼稚園の保護者を対象にこのプログラムを使った交通安全教室を開催しました。同園の保護者のほとんどはクルマで子どもを送迎していることから、「自動車」をテーマにした本編映像を選択。駐車場でお母さんが他の人との会話に気をとられて子どもから目を離し、子どもが遊んでいるうちに往来するクルマの前に

飛び出して事故に遭ってしまう映像などを見せ、こうした事故を防ぐために自分ならどうするか、保護者に考えてもらいました。そして、交通安全指導員が駐車場などで子どもだけを先に乗せたり降ろしたりしないこと、駐車場では必ず手をつなぐことを強調しました。このように、保護者一人ひとりの安全意識を高め、家庭における交通安全教育の充実につなげていきます。



松本光明幼稚園での交通安全教室



### 交通安全指導者の声



松本市交通安全指導員 深澤靖恵さん

私たちが保護者の方々に伝えたい内容が網羅されているので、我々の教室にも取り入れることにしました。わかりやすい映像により、大人が交通ルールを守ることの重要性を理解していただけたと思います。今後も、保護者の方々が参加する交通安全教室で活用していきます。

### 受講した保護者の声

松本光明幼稚園での交通安全教室に参加した 倉田由香里さん(上)と小口愛子さん(下)

映像の中の悪い例を見て、自分にも思い当たる部分があったので、気をつけなければいけないと感じました。来年、子どもが小学生になるので、入学前に通学路と一緒に歩いて、危険な場所を確認しておこうと思います。(倉田さん)

映像を見ることによって、自分はどうのように行動してきたか振り返ることができました。お母さんが子どもの様子を確認しながら、手をつないでクルマに乗せたり降ろしたりしているシーンが印象に残っているので、参考にしたいと思います。(小口さん)



### 園長の声



松本光明幼稚園 園長 西片紀美子さん

気にはしているけれど、実際にはできていないということを保護者の方々に気づかせてくれる映像だと感じました。映像を見終わった後に交通安全教育指導員の方が適切なアドバイスしてくれたことも良かったと思います。子どもの命を守るのは保護者だということを再認識していただけました。